

江津市都野津町における持続可能なまちづくりへの取り組み

住居環境科 岩本 智美

The Project for the sustainable town planning in Tunozucho, Gotsu City

Satomi IWAMOTO

概要 江津市都野津町は、かつては石州瓦生産の中心として栄えにぎわいがあったが、現在は人口減少や少子高齢化という問題に直面し、空き家や空き地が増え静かな町となっている。そこで、学生の視点で都野津町の持続可能なまちづくりを考えようと、空き地を活用した設計提案や空き家のリノベーション計画、まちづくり計画について、2019年度、2020年度の総合制作実習で取組んだ。本報では二年間の調査結果および2019年度の取り組みである空き地活用として“まちおこし”ができる集合住宅の設計提案について報告するものである。

1. はじめに

人口減少や少子高齢化が進行する状況の中、社会の課題として持続可能で活力あるまちづくりの重要性が認識されている。この実現に向けては①低炭素・循環型まちづくり、②高齢化社会に対応したまちづくり、③安全性・防災性の高いまちづくり、④活力と魅力のあるまちづくり、⑤官民の連携等による持続可能なまちづくりの実現といった課題があり¹⁾、多様なアプローチでまちづくりについて考えていく必要がある。

島根職業能力開発短期大学校（以下、「島根短大」という）の最寄り駅がある江津市都野津町は、かつて石州瓦生産の中心地として栄え、まちの中心部(旧市街)には多くの商店が立ち並び人であふれていた。しかし、現在は昔の形を残したままの空き家や空き地が増え、住民の減少や高齢化も進んでいる。このままでは、地域コミュニティの機能が低下し、住民同士の交流や地域のにぎわいの減少、生活利便性の低下などにより、さらなる人口減少を招いていく悪循環に陥ることが考えられるため、未来に向けたまちづくりの取組について検討、実施していく必要がある。

都野津町のまちづくりについては、地域住民が主体となり様々な活動が行われているところだが、島根短大でも、総合制作実習において学生の視点で都野津町のまちづくりについて取り組むこととした。

2. 江津市都野津町について

2.1 都野津町の概要

江津市西部に位置する都野津町は、良質な粘土層（都野津層）から産出される陶土を原料にした、日本三大瓦の一つである「石州瓦」の発祥地である。かつては町内に十数社の窯（登り窯）があり、西日本でも有数の瓦産地となった。島根県西部で石州瓦は「赤瓦」と称され、集落に連なる赤瓦屋根のまちなみは、江津市を象徴する代表的な景観になっている。また、かつては商業も盛んで「都野津商人」と呼ばれる行商人の拠点として栄えてきたまちでもある。



図1 都野町の赤瓦屋根の景観

2.2 人口の推移

都野津町の人口は、図2に示す通り、昭和30年代の約3,500人をピークにやや減少してはいるものの、50年以上にわたり三千人前後で推移し、平成31年3月末現在2,860人である。

現在の都野津町中心部は空き家・空き地が増え、人口は減少しているが、町全体の人口は大きな変化がない。これは、都野津町南地区において、昭和 50 年代から平成初期にかけ積極的な区画整理によって良好な宅地開発が行われたことで、南地区の人口は増加し、一方で中心部の人口は減少したことによるものと推測できる。



図 2 都野津町人口の推移

2.3 瓦産業

瓦は都野津町の主な産業で、そのはじまりは、江戸末期頃に町内に窯が設けられ瓦を製造したとされている。昭和 20 年代までは、原土採掘や土練、瓦の成形、施釉、登り窯での焼成などの製造工程や荷馬車での製品の運搬は、多くの労働者によって行われていた。そのため、都野津町中心部にも瓦製造業に従事する町民が多かった。

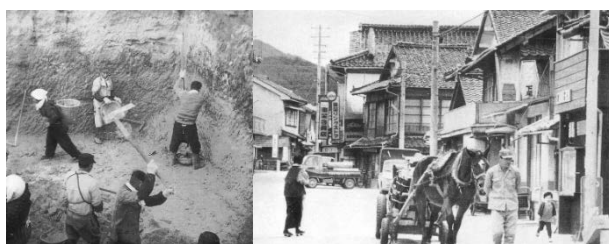


図 3 粘土採掘現場（昭和 27 年頃）と瓦の運搬風景²⁾

その後、昭和 40 年代「設備・技術革新の時代」に入り、登り窯からトンネル窯への移行や多くの工程が機械化されていくと、安定した品質の製品を大量生産することが可能となり、石州瓦の出荷枚数も増加していった。一方で、これまで作業を担った人員が不要となり、このことは都野津町中心部の人口減少の一因と考えられる。

また、近年は住宅着工数や木造在来工法の減少、軽量新素材の台頭などにより瓦需要が低迷し、出荷

枚数や瓦事業所数も減少している。

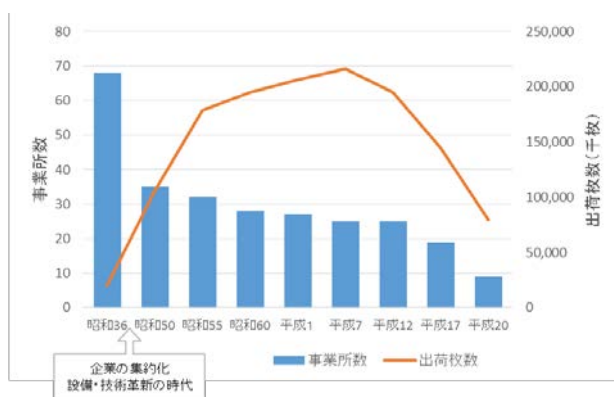


図 4 石州瓦工業組合の事業数と出荷枚数の推移

2.4 商業

かつては沿岸漁業が盛んで大きな産業の一つであった。これに伴い鮮魚・塩魚類の朝売りが盛行し、一日行程での行商が行われるようになり、のちの都野津商人といわれる呉服反物を主とした行商へ発展した。明治 22 年「都野津村村議会議事録」（江津市役所蔵文書）に「古昔ヨリ中等以上ノモノハ概ネ商業家ニシテ、此商売タルヤ普ク他府県へ行商シ」とあり、この頃の都野津村で商業を営む家のほとんどが行商従事者であった。³⁾ 都野津地区にはこの行商の根拠地となる市街地が形成されていき、大正 9 年 12 月に都野津駅が開業し山陰本線が開通すると、都野津駅付近まで市街地が発展した。

昭和 30 年頃には都野津町役場のある旧道沿いや駅前の通りを中心に約 100 軒の商店や事業所があったが、昭和 39 年に現在の国道 9 号線が開通し車の流れが移ると、次第に都野津町の商勢は衰退していった。

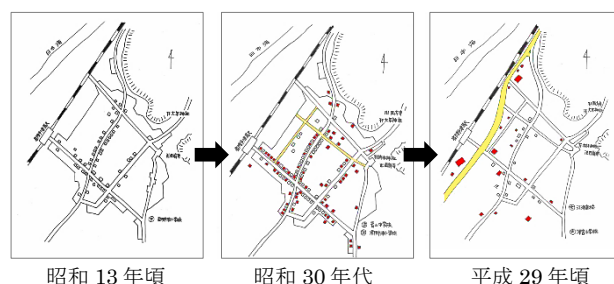


図 5 商業店舗の変遷

3. 現地調査 ^{4) 5)}

3.1 調査の概要

都野津町の現況について把握するため、まちなみ景観をつくる赤瓦や空き地・空き家、狭隘道路等の調査を行った。また、住民への聞き取り調査を行い、都野津町の抱える問題についてまとめた。



図6 聞き取り調査、現地調査の様子

3.2 調査区域

佐々木準三郎記念館（旧都野津町役場）付近の旧道東側に位置する地区（以下、「中心地区」という）115 軒、江津高校に隣接する都野津町の東に位置する地区（以下、「東地区」という）117 軒について調査を行った。

3.3 瓦の色分布

瓦の色を見ると、中心地区で71%、東地区で58%と高い割合で赤瓦となっている。まちなみには立派な鬼瓦や縁起ものの飾り瓦も見られ、瓦の産地らしいまちなみを作っている。

また、瓦とともに街の景観に大きく影響する外壁についても調査し、外壁は特に焼き板の家が多く見られ、その他に漆喰や砂壁、石張りなどもあった。

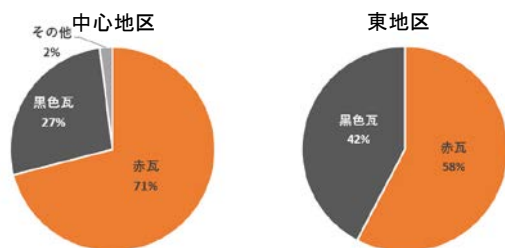


図7 瓦の色分布



図8 飾り瓦

3.3 空き家・空き地

空き家率は中心地区が 13%、東地区が 24.6%で、これは島根県の空き家率 15.2%、全国の空き家率 13.6%と比較すると、とくに東地区の空き家が多いことがわかる。また、空き地は放置され草に覆われていたり、整備せずに駐車場として利用されていた。

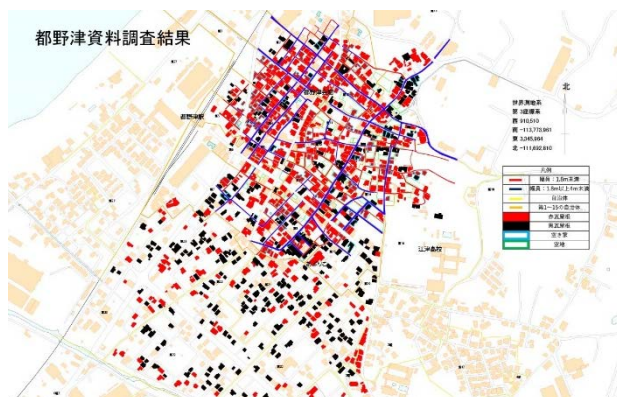


図9 現地調査結果

3.4 聞き取り調査

都野津町町づくり協議会やコミュニティーナースの方など、都野津町のために活動する方々と都野津町の住民へ聞き取り調査を行った。

調査の結果、少子高齢化や住民の減少傾向の中「人とのつながりが希薄」であるという問題点がみえた。

また、住宅は密集し、周辺道路も幅員 1.8m～4m 未満の狭隘道路や 1.8m 未満の路地が多いため、生活に生じる不便について聞いてみたが、昔からの住民にとっては慣れ親しんだ道であり特に不便を感じていないことが分かった。

3.5 都野津町の課題

都野津町の問題点を次の通り整理した。

まず空き家・空き地の問題。これらが放置されることにより老朽化による倒壊の危険や、景観・治安の悪化などの問題が懸念される。また、まちなみの印象も悪くするため、適正な管理または活用することが必要となる。

2 つ目は人とのつながりについて。人とのつながりは防犯やまちなみの活性化に効果がある。またコミュニケーションによるボケ防止や気力回復、病気の早期発見につながるため高齢化が進む中において医療の点でも重要である。

3 つ目は狭隘道路の問題。住民は不便を感じていないようだが、災害時の避難路、日照や通風等の確保など安全で良好な環境を形成する上で問題がある。また、路面が悪い道路も多く、足の悪い高齢者にとっては外出の障害になり得ると考えられる。一方で、「景観として残したい」「近道や迷路になる」といった声もあり、高齢者も含めた全ての住民が負担なく生活できるよう、拡張の必要な道路と路地として残すものの整理が必要である。

4. 空き地の活用⁵⁾

4.1 概要

調査をしていく中で、人影がない、人との関りが少ないと強く感じた。もう一度昔のようににぎわいを取り戻したいと考え、空き地の活用として“まちおこし”ができる集合住宅を設計する。

4.2 計画地

佐々木準三郎記念館(旧都野津町役場)から約100m東に位置する、かつて劇場(のちに映画館)のあった約1800㎡の空き地に計画する。敷地南側に幅4m未満の2項道路、北側と東側には幅約1.8mの路地があり、敷地周辺には家が建ち並んでいる。また、敷地内には空き家が1軒ある。



図10 計画地の位置

4.3 コンセプト

『まちの人のための集合住宅』

まちおこしには今住んでいる人の理解や協力が必要であり、参加してもらうことが大切である。そしてやる気のある人が住むことでなにか生まれるのではないかと考え、「まちを巻き込む」こと、「共有する」ことをコンセプトに設計する。

『支援する集合住宅』

小さな店舗を開業したい、まちおこしをしたいと考えている人など、都野津町に定住したいと考えている方を支援する集合住宅。期間を定めて店舗独立までの過程を集合住宅に滞在する者同士で助け合い、同時に都野津町を盛り上げ、昔のにぎわいを取り戻す。

4.4 集合住宅の仕組み

チャレンジショップを組み合わせた集合住宅とし、ここをきっかけに都野津町への定住やまちおこしを促すために図11のような仕組みを考えた。

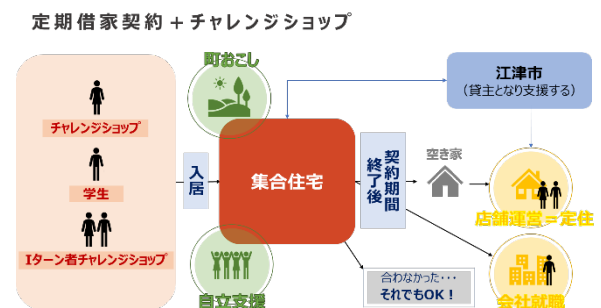


図11 仕組み概念図

入居者対象者は小売業をしたい方、まちおこしをしたい方、江津市の学校に通う県外出身の学生とする。契約期間は2年とし、期間満了により更新されることなく契約が終了する定期借家制度を利用する。さらに、契約満了時には、町内の空き家を活用して店舗などを開業すること、学生については江津市内企業への就職を条件とし、この条件を満たした場合、契約期間の家賃の1/2を返還する。これにより地元の方やIターン者によるチャレンジショップ、そして学生の入居により、この集合住宅自体が都野津町のまちおこし、そして入居者の自立支援につながる。また、Iターン者にとっては、定住の試行期間として都野津町に住む体験ができる。

さらに、様々な面から入居者のサポートができること、契約終了後も空き家を活用した店舗開業を引き続き支援できることを考慮すると、江津市に支援していただくか、あるいは貸主になっていただくことで万全の支援体制をもつ仕組みが構築できると考える。

4.5 配置

タウンハウス型の集合住宅とし、図のように各棟を配置した。両端は学生専用の住宅とする。その間に1階が店舗、2階が住宅の店舗兼住宅を5棟配置する。正面から敷地中央にかけて共有スペースとし、敷地にある空き家をリフォームして、お客さんの休憩場所及び入居者の集会所として利用する。敷地南側にはお客さん及び入居者の駐車場を設ける。

4.6 導線

敷地北側と東側にある路地はそのまま利用し、さらに各棟を近づけて配置することで路地を再現した。町の人が行きやすい空間をつくるため、図12のように様々な方向からアクセスすることができ、路地を抜けた先は集いの場となっている。ここでは、冬には焚火など自然と人が集まるものを設置する。

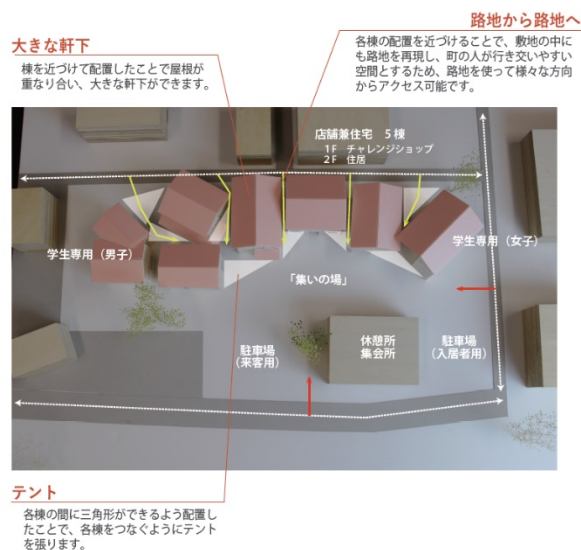


図12 配置・導線計画

4.7 外観

屋根は統一感をもたせるため、すべて石州瓦の切妻屋根とし、各棟を近づけたことで屋根が重なり合い、大きな軒下ができる。また、各棟は三角形ができるよう配置し、各棟をつなぐようにテントを張る。軒下、テントの下に人が集まることで一体感を表現。

外壁はまちに溶け込むように杉板を使用する。杉板は日光や雨風をあび、日が経つにつれて色が落ちる箇所ができることで変化を楽しむことができる。



図13 敷地鳥観図



図14 集いの場



図15 南立面図



図 16 集合住宅模型

4.8 平面計画

チャレンジショップ入居者用の店舗兼住宅棟は、1 階店舗部分にはどんな業態の店舗でも入れるように設計している。各店舗の入り口は人が集まるところに向けて配置し、通り抜けできるなど開けた空間として、軒を伸ばしたり、デッキの上に 2 階がきて屋根ができたりと、人の居場所ができるようにした。また、昼間は店舗としていた空間が夜になるとダイニングになるなど、場所の使い分けにも配慮した。2 階住居部分は単身者および家族での入居が可能で、家同士が近いことで日当たりの確保が難しいが南側にリビングを配置し、そこから集いの場や外の様子が見え、家にいてもにぎわいを感じることができる。

学生専用棟は、1 階に水回りなどの共有空間と図書館のように本が置いてあり学習できるスペースを設置し、2 階には 4 人入居できるよう男女とも 4 部屋設置している。

4.9 成果発表

今回の設計提案について、都野津町や江津市都市計画課、江津ものづくり未来人材発表会等で提案発表を行った。江津市都市計画課では市の主催するビジ

ネスコンテスト入賞者用の店舗兼住居や、若者定住促進用住宅としての活用が考えられると評価された。一方で、法的な検討やチェック不足を指摘された。都野津町は接道条件を満たしていない土地がほとんどであるため、残すべき路地と広げるべき道路の整理を含めた町全体の計画として考えることを助言いただいた。

6. おわりに

まちづくりとは住民が「自分たちの地域をより良くする」「地域で困っていることを解決する」など、地域の暮らしを支える活動であり、地域住民が主役となってまちづくりを進める必要がある。

今回、調査結果をもとに都野津町の課題について整理し、その解決に向けた設計提案について報告した。この報告、提案が、住民一人一人がまちづくりについて考えるきっかけになることを願う。

文献

- 1) 持続可能なまちづくり研究会 提言, 持続可能なまちづくり研究会, pp.5-7, 2012
- 2) つのづ今昔, 都野津公民館文化事業部
- 3) 江津市誌 別巻, 江津市誌編纂委員会, pp.664, 江津市, 1982
- 4) 吾郷翔太・石原翼・川中一輝・貞方真理, 都野津の都市計画-, ポリテクカレッジ島根令和 2 年度総合制作概要集, pp.29-30, 2021
- 5) 杉原美友, 都野津のまちづくり-集合住宅の計画-, ポリテクカレッジ島根令和元年度総合制作概要集, pp.29-30, 2020

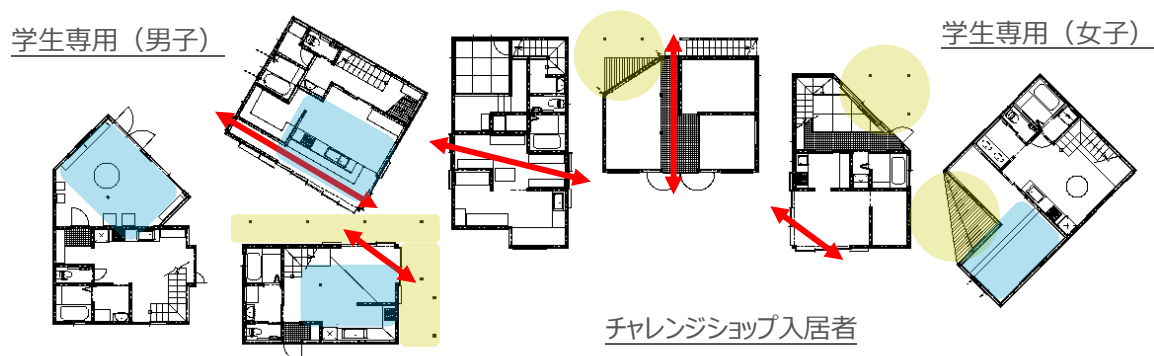


図 17 1 階平面計画